

JCAR北極域研究計画ワークショップ発表まとめ一覧

2018年4月と9月にWSを開催。その時に寄せられた要旨を分野別に示している。  
次ページ以降に番号順に要旨をまとめている。

○印のあるものはクリックすると資料を閲覧できます

第1回2018年4月12日(国立極地研究所大会議室)  
第2回2018年9月19日(国立極地研究所セミナー室)

20190115

No.	タイトル	氏名	所属機関	要旨	公開用発表ファイル
中～超高層大気・オーロラ研究					
1	EISCAT_3Dレーダーを中心とした国内・国際共同研究の推進	EISCAT_3D計画準備室 / 小川泰信	国立極地研究所	○	
2	EISCAT_3D と熱圏大気プロファイラを用いた極域磁気圏-電離圏-熱圏結合の研究	大山伸一郎	名古屋大学/オウル大学(フィンランド)	○	○
3	SuperDARN国際ネットワークによる北極域電離圏電離圏プラズマ・超高層大気の間相互作用の研究	西谷 望	名古屋大学	○	
4	オーロラ高エネルギー粒子による大気微量成分への影響に関する研究	大山伸一郎	名古屋大学/オウル大学(フィンランド)	○	○
5	ライダーおよびレーダーによる北極域大気上下結合の研究	野澤悟徳	名古屋大学	○	
雲・エアロゾル・温室効果気体・大気汚染物質研究					
6	ライダーを用いたエアロゾルと雲の連続観測	柴田 隆	名古屋大学	○	○
7	北極上空上部対流圏および下部成層圏における温室効果ガスの変動	町田敏暢	国立環境研究所		
8	北極域における温室効果気体濃度・同位体比の長期変化	森本真司	東北大学	○	
9	ニーオルスンにおける大気中温室効果気体および関連成分の連続観測	後藤大輔	国立極地研究所	○	
10	北極温暖化に関わる大気物質科学研究	小池 真	東京大学		
大気-海洋-陸域物質循環研究					
11	海水から大気への粒子発生メカニズムと大気化学環境への影響	的場澄人	北海道大学		
12	北極海と大気・陸の間の物質交換: その変化と行方	川合美千代	東京海洋大学	○	
13	北極域における地球システムモデル陸域過程の拡張と高度化(凍土-植生-湿地化, 大気⇄陸域⇄河川⇄海洋の物質循環)	斉藤和之	海洋研究開発機構	○	
積雪動態・氷床・気候応答・海水準研究					
14	メソスケール規模における積雪の動態把握	杉浦幸之助	富山大学	○	
15	アイスコアを用いた過去200年間の沈着エアロゾルのデータベース創成と変遷解明	的場澄人	北海道大学		
16	グリーンランド氷床の研究による地球の気候・環境・海水準変動の研究	東 久美子	国立極地研究所	○	
17	グリーンランド北西部における氷河氷床・海洋・大気・生態・地形に関する総合的な研究	杉山 慎	北海道大学	○	
18	広帯域地震観測網によるグリーンランド氷床の気候変動に対する応答メカニズム解明	金尾政紀	国立極地研究所		
19	北極領域システムモデル構築	青木輝夫	岡山大学	○	
海洋物理・海洋生態・海水・波浪研究					
20	Synoptic Arctic Survey & Repeat Hydrographic observation across the Arctic Ocean	菊地 隆	海洋研究開発機構		
21	北極海水緑域横断観測	西野茂人	海洋研究開発機構	○	○
22	係留系を用いた海洋物理・化学・生物モニタリング観測	伊東素代	海洋研究開発機構		
23	海水厚の係留観測	深町康	北海道大学	○	○
24	海水融解に伴う物理環境の変化が北極海の海洋生態系および物質循環に与える影響の評価	平澤 享	北海道大学		
25	高解像度海洋海水モデル開発を策定するための確率密度関数モデル導入	池田元美	北海道大学兼海洋研究開発機構	○	○
26	北極環境変動メカニズムの解明に向けた海水海洋結合モデリング	渡邊英嗣	海洋研究開発機構	○	○
27	海水相互作用の現象理解と再現技術の抜本的改善	金野祥久	工学院大学		
28	北極海における波浪とその影響	早稲田卓爾	東京大学		
永久凍土・水循環・植生・森林火災研究					
29	サーモカルストによる北極陸域変化とその影響	岩花 剛	アラスカ大学		
30	ポーカークラフツスーパーサイトを利用した不連続永久凍土帯の陸面過程研究	岩花 剛	アラスカ大学		
31	永久凍土の融解とそれに伴う環境影響の把握	末吉哲雄	国立極地研究所		
32	永久凍土上森林の持続的利用と新価値創出	杉本敦子	北海道大学		
33	北極低気圧・降水・水循環変動の長期変化とその実像の解明	飯島慈裕	三重大学		
34	環境変動下における北極生態系の生物多様性と物質循環研究	内田雅己	国立極地研究所		
35	北極域生物多様性モニタリング(特に温暖化が鳥獣類の分布と群集構造に及ぼす影響の把握)	立澤史郎	北海道大学	○	○
36	温暖化がアラスカ北方林・ツンドラ植生の温室効果ガスや植生・土壌動態に与える影響の解明	小林秀樹	海洋研究開発機構		
37	シベリア域での陸面過程の将来変化	山崎 剛	東北大学	○	
38	東シベリア永久凍土生態系の脆弱性評価と凍土保全策の共創	檜山哲哉	名古屋大学	○	
39	北方林での大規模森林火災発生の気象現象の解明 - 気候変動に伴う自然災害の緩和	早坂洋史	北海道大学	○	
40	森林火災及びその大気汚染の高精度予測と火災の人間活動・生態系への影響および今後の適応策	安成哲平	北海道大学		
41	SARと現地観測による森林火災後の地盤変動と表層環境変化の検出	古屋正人	北海道大学		
42	北極域の森林火災: 要因の特定と予測および大気圏・生物圏・永久凍土・自然災害・地域社会経済への影響評価	古屋正人	北海道大学		
航路・観光・流出油の研究					
43	北極航路の持続的利用と環境・社会インパクト	大塚夏彦	北海道大学		
44	持続的北極域観光・クルーズに向けたあるべき姿と課題・対策	田中雅人	北海道大学	○	○
45	氷海域における流出油対策	中澤直樹	システム工学研究所株式会社		
先住民・社会変化・人間移動の研究					
46	北極域の先住民漁撈・漁業: 気候変動とグローバル化への適応をめぐる学際的研究	近藤社秋	北海道大学		
47	環北太平洋沿岸地域における環境変動と先住民社会の変化に関する比較研究	岸上伸啓	人間文化研究機構	○	
48	社会及び気候変動下における周北極域の生物季節と人々の生活の関わり	永井 信	海洋研究開発機構	○	
49	シベリア地域における社会と環境のネットワーク	後藤正憲	北海道大学	○	○
50	北極域エネルギー資源探掘をめぐる先住民社会と東アジアの動態	高倉浩樹	東北大学	○	
51	第四紀ペリンジアにおける地形-凍土-気候-生態システムと人類移動史	斉藤和之	海洋研究開発機構	○	
政策・国際政治・国際法の研究					
52	Teleconnections/Telecouplings in the Arctic communities: intranational and international connections and impacts on rural people livelihood	大西富士夫	北海道大学		
53	北極環境変化の国際関係への影響	大西富士夫	北海道大学		
54	複雑化する北極政治に関する総合的研究	大西富士夫/高橋美野梨	北海道大学		
55	科学研究と国際政治: 基地を基点にして	高橋美野梨	北海道大学		
56	北極域における政策的に意義ある科学(Policy-Relevant-Science=PRS)研究	原田尚美/柴田明穂	海洋研究開発機構/神戸大学		
57	北極評議会の組織的・機能的展開に関する研究	幡谷咲子	神戸大学		
58	今後求められる北極国際法研究とは?: 神戸大学極域協力研究センター(PCRC)の3年間の研究を踏まえて	稲垣 治	神戸大学	○	
観測機器開発・人材育成・研究事業					
59	北極沿岸-陸棚斜面域における新たなメタンサイクル検出のための観測技術の開発とその環境影響予測	内田昌男	国立環境研究所	○	
60	デファクトスタンダードを目指す北極研究観測機器開発	村山英晶	東京大学		
61	練習船おしよ丸による北極海観測を活用した、諸課題に対応可能な次世代研究者の育成	平澤 享	北海道大学		
62	わが国北極研究計画の歩みと今後の目指すべき方向性-GREENEおよびArCS計画策定を振り返って-	山内 恭	国立極地研究所	○	○